

・エピソード

応援が夢を叶える

振り返れば今までの人生は人との出会い、人から応援をしてもらって今の自分がある事に気付かされます。

今までどうやって、自分で夢を見つけ、夢に向かって挑戦出来たのかをお話いたします。

空手を始めたのは高校1年生の時、キッカケは同じクラスメイトに虐められたからでした。毎日顔を合わせるクラスメイトから逃げだしくなったけど、自分自身が強くなって虐められなくなる事が僕の思いついた解決方法でした。

強くなる為に地元で一番強いと言われている空手道場を見つけ、その道場に行くためにチラシを配りお金を貯め空手を始めました。その道場には北海道チャンピオンが在籍し本当に強い人に出会い、その人の強さと優しさに触れ本当の強さを学んだ気がしました。

短い期間でしたが空手を始め、先生の応援で試合に挑戦し、負けはしたものの、自分に自信がついた事で、周りにも優しく慣れた結果、虐めてきたクラスメイトとも友達になることができました。

空手にはそんな恩もあります。

格闘技イベントK-1に憧れて上京する時も、道場の先生はがんばってこいよ！と背中を押してくれました。

先生からすると自分の元を離れるのにも関わらず、がんばってこい！と背中を押してくれたことがどれだけ勇気をくれたかわかりません。

新しい道場では全国から強者が集まり、凄い人数の道場生がいました。

一からスタートした道場でも少しづつ仲間ができ、親身に教えてくれる先生、先輩が思いっきり向かっていく僕にどーんと構えて胸を貸してくれ心身共に育ててくれました。空手の練習では本気で殴り合い時には倒され、痛い、苦しい思いもしながら、真剣に戦って向かい合うことで、技を覚えます。その痛みや苦しさを身体で感じながら礼儀や感謝を教わります。人として、生きていく上で無くてはならない、大切な心、礼節を学びました。

育てるとは、背中をおすことであり、応援することなんだと思います。

そして、紆余曲折はありましたが、今僕は空手の道場を経営し、6年が経ちました。毎日が空手を学びに来てくれる子供達や大人達と過ごしとても充実した日々を過ごせています。

僕が空手で、人生で学んだ心を、

今来ている道場生のまだまだ未完成でか弱い心を育てる事、つまり応援する事が今の使命だと心に決めて子供達と人生を共にしています。

人生は応援の連続。

この応援、育てる気持ちを忘れずに

子供達に空手を伝えて応援して行く事が僕の使命です。 押忍